

別添4 主な感染症一覧

感染症名	病原体	潜伏期間	感染経路	症状	診断	治療方法	予防方法	感染期間	登園基準	集団保育において留意すべき事項
麻疹 (はしか)	麻疹ウイルス	10～12日	空気感染、飛沫感染、接触感染	①カタル期：38℃前後の高熱、咳、鼻汁、結膜充血、目やにがみられる。熱が一時下がる頃、コプリック斑と呼ばれる小斑点が頬粘膜に出現する。感染力はこの時期が最も強い。 ②発疹期：一時下降した熱が再び高くなり、耳後部から発疹が現れて下方に広がる。発疹は赤みが強く、少し盛り上がっている。融合傾向があるが、健康皮膚面を残す。 ③回復期：解熱し、発疹は出現した順に色素沈着を残して消退する。 <合併症>中耳炎、肺炎、熱性けいれん、脳炎	臨床的診断、ウイルス分離、血清学的診断	対症療法	麻疹弱毒生ワクチン(定期接種/緊急接種) 1歳になつたらなるべく早く麻疹風疹混合ワクチンを接種する。小学校就学前の1年間に2回目の接種を行う。	発熱出現1～2日前から発疹出現後の4日間	解熱した後3日を経過するまで	<ul style="list-style-type: none"> 入園前の健康状況調査において、麻疹ワクチン接種歴、麻疹既往歴を母子健康手帳で確認し、未接種、未罹患児にはワクチン接種を勧奨する。入園後にワクチン接種状況を再度確認し、未接種であれば、ワクチン接種を勧奨する。 麻疹の感染力は非常に強く1人でも発症したら、すぐに入所児童の予防接種歴、罹患歴を確認し、ワクチン未接種で、未罹患児には、主治医と相談するよう指導する。 接触後72時間以内にワクチンを接種することで発症の予防、症状の軽減が期待できる(緊急接種)。対象は9か月以上の子ども。 接触後4日以上経過し、6日以内であれば、筋注用ガンマグロブリン投与方法もある。 児童福祉施設等における麻疹対策については、「学校における麻疹対策ガイドライン」(国立感染症研究所感染症情報センター作成)を参考にする。 (http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/guideline/school_200803.pdf)